令和5年度 学校評価書（自己評価・学校関係者評価）

山形県立米沢興譲館高等学校

スクール・ミッション	「『興譲』の精神」（自他の生命を尊重する精神、己を磨き、誠を尽くす精神、世のために尽くす精神）のもと、高い志を持って、積極的に地域や世界の他者と協働しながら、果敢に挑戦し新しい価値の創造に向け貢献していく、次代のリーダーとなる人材を育成します。
目指す生徒像	『いのちを尊び、新たな価値創造の志を持ち挑戦する生徒』 1 自他の生命を尊重し、調和のとれた人間性豊かな生徒 2 謙虚に学ぶ姿勢を身につけ、高い志を持ってその実現に向けて努力する生徒 3 次代のリーダーとして、自立し、世のために尽くそうとする生徒
重点目標	1 自立に向けた生徒指導の展開 2 学力の向上 3 探究型学習の推進 4 進路指導体制の充実・強化 5 学習環境の整備と健康・安全教育の推進 6 魅力ある開かれた学校づくり 7 校務の情報化の推進 8 健康管理、働き方の改善と教職員倫理の醸成

【評価基準 A：達成できた B：ほぼ達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった】

番号	自己評価			学校関係者評価			
	評価項目	具体的方法と指標・基準	今年度の成果と課題	達成度	次年度に向けた改善策		
1	自立に向けた生徒指導の展開	・自他の生命を大切にしながら、周囲と良好な人間関係が構築できるよう支援する。 ・いじめ防止アンケート、スクールサイン、面談によりいじめを早期に把握する。 ・生徒面談を通して、生き方や良好な人間関係の構築を考えさせ、健全な成長を導く。 ・交通や社会のルールを順守し、社会の構成員として当たり前のことを当たり前に行動できる態度を養う。 ・各分掌と情報を共有し、機会を捉えた生徒状況の把握により、諸問題を早期に見出す。 ・いのちの講話及び各種講演会等とおして、いのちの教育を推進する。	○いじめ防止アンケート（年3回）やスクールサイン（7月～9月）を通して、学年と連携しながら状況の把握と対応に当たり、全ての案件で経過を見守っている。 ○コロナ5類移行を受け、熱中症対策を講じながら、生徒自治会が中心となって、体育祭・興譲祭・高鍋高校との交流等が有意義に実施できた。 △生徒の交通ルール違反が見られ、地域の方々から心配の声が多く寄せられた。今年度は9件の交通事故が発生した。 ○いのちの講話では、スマートフォンと学習の関係について理解を深め、今後の生活を考える機会を設けることができた。 △生徒アンケートにおいて、時間管理ができていないと回答した生徒が7割台に留まっている。	A	・いじめ防止については学年団や生徒課を中心に更にきめ細やかに取り組んでいく。 ・SNSの適切な利用について、様々な場面を捉えて、今後も指導を継続していく。 ・日常的な生徒自治会活動がどうあるかへきか研究を深めていく。 ・学年会等で生徒の状況を共有し、個々の生徒がタイムマネジメントできるよう指導する。 ・重大事故を発生させないために、交通安全ルールの徹底と規範意識の醸成に努める。また、自転車ヘルメット着用推進モデル校として、ヘルメット着用率を上げる取組みを行う。	・コロナで式典やコミュニケーションがなくなっていたが、礼儀作法など立ち振舞いの部分を強化する必要がある。 ・スピーチコンテストでは、生徒が自分ごととして落とし込んで表現がなされていた。その点において良い教育が行われていると感じた。 ・タイムマネジメントに関する結果について、時間に対する感覚が大人と違うこと（大人に比べて生徒には残された時間がたくさんあること）を考えれば結果が低いからと言って他の項目と同列には扱えない。タイムマネジメントをしていこうという姿勢が大切である。	
2	学力の向上	・「興譲館3DOC」を目標に据えた「自己効力」を高める指導と評価の実践 ・「考える力」の向上と主体的に学ぶ姿勢の育成に適う教科指導力の向上 ・観点別評価をととした個々の生徒の資質・能力を伸ばす指導と評価の充実 ・一人一台タブレット端末を活用した学習指導の工夫・改善 ・普通科、探究科のねらいを踏まえた教育課程の実践と教科指導力の向上	・興譲館3DOCを意識した教科指導の推進に向け、多様な評価の実践を行う。 ・主体的に学ぶ姿勢の育成と、一人一台タブレット端末の授業での有効活用を行う。 ・シラバスを活用し、各科目の学習内容・評価方法等について生徒・保護者へ周知する。 ・生徒情報共有会議、生徒未来創造会議を活用した個に応じた指導法を実践する。 ・生徒による授業評価（年間2回）をととして、教員が自身の授業を振り返り、授業改善に取り組む。	○個々の教員が様々な授業を互視し、3DOCを意識した指導法について研究が必要である。 ○一人一台タブレット端末を活用した授業を実施し、活用事例の共有を図られた。 ○1学期中間評価期間（令和6年度から「学習振り返り強化期間」）の有効実施に向けた具体的手立てを研究する。	A	・教員の指導力向上のための各種研修会を実施する。また、教員向け講習会への積極的参加を促進する。 ・一人一台タブレット端末を活用した授業実践の拡大に努める。 ・時間割を適切に設定し、授業時数の良好なバランスを確保する。	
3	探究型学習の推進	・ESDエキスパート制による探究活動の充実と「未来創造プログラム」の推進 ・SSH第IV期の実践と地域の高等教育機関や企業、地域と協働した教育の推進 ・ユネスコスクール・キャンディデート事業と国際教育の推進	・ESDエキスパート制により、FS・SSR・3年生の受験指導（小論文・面接指導）まで、全職員協働での教科横断型指導体制を推進する。 ・国際探究科の実践事例および実績の積み上げを図る。 ・SSH事業や探究活動の積極的な地域への普及・広報を通して、各事業の魅力化と拡大を図る。 ・外部との連携に関する情報を職員間で共有し、外部教育資源活用の推進を図る。 ・SSH事業第IV期に係り、本校STEAM教育の「Art」の柱となるデザイン思考を学ぶため、1年生を対象に「デザイン思考ワーク」を実施する。 ・ユネスコスクールキャンディデート校としてグローバル人材の育成を推進する。	○SSH通信を年間16号発行した。 ○各種イベントを、Classroomや掲示板を活用して生徒へ案内し、積極的な参加を促すことができた。 ○1年生を対象に「デザイン思考ワーク」を東北芸術工科大学との連携により実施し、探究型学習の良いスタートを切ることができた。 ○国際探究科設置後初、理数探究科5年ぶりに海外研修を実施できた。 ○SSH生徒研究発表会において、審査委員長賞を受賞した。（本県初） ○ユネスコスクール活動の一環として、「2023年度ユネスコスクール北海道・東北ブロック大会」に出場した。 ○地元の小中学生を対象に「米沢興譲館探究フェスティバル」を開催し、科学の楽しさやSDGsの大切さを伝えることができた。	A	・ESDエキスパート制と学年行事の円滑な連携に努める。 ・探究活動をさらに充実させ、個々の生徒の進路実現とキャリア形成につなげていく。 ・令和6年度に実施されるSSHIV期中間ヒアリングを見据え、成果の記録と分析、行事・企画の精選・発展に取り組む。 ・SSH事業とユネスコスクールキャンディデート校として、本校の探究活動の体系を整理する。 ・SSH・探究課関係企画の趣旨や目的およびこれまでの議論の経緯を全職員でしっかり共有する必要がある	・米沢の人口減少のなかで、地元で活躍する人材を育てることが保護者のなかではよく話題になる。評価の項目に入れるべきではないか。評価の際には実業高校などを参考にしてみるのはいかがか。 ・生徒の活動を外部に評価してもらうことは、生徒の自信だけでなく、地域からの支援にも繋がっている。どこにいても地元を好きでいてくれるような工夫を小中高の流れの中で行っていきたい。 ・本校の卒業生が米沢で活躍しているが、広い世界に出たときに心の支えになるのは地域の魅力や本校の良さを表現できることではないか。
4	進路指導体制の充実・強化	・個々の進路希望の実現に向けた組織的支援体制の充実 ・キャリア教育実践プログラムの改善と高い志を育む指導と系統的な進路指導の充実 ・大学入学共通テストへの教科「情報」の導入など大学入試制度の変更に伴う情報収集と指導体制の構築、学校推薦型選抜、総合型選抜に向けた指導の充実 ・「生徒未来創造会議」、「生徒情報共有会議」による全職員共通理解と一人ひとりの能力を引き出し育む指導の推進	・KITメンバーを早期から集団化し、挑戦する志を育成し、学力の向上を図る。 ・学年間交流による縦のつながりとグルーピング指導による横のつながりを構築する。 ・友子会を継続することによって志望者を増加させる。 ・学年団と連携して、生徒面談を実施する。 ・進路室常駐教員を中心とした面談体制を整備する。 ・大学入学共通テスト等の入試制度改革に関する研修会へ積極的に参加し情報収集、情報共有を行えるような環境づくりに努める。 ・ESDエキスパート制を中心とした全職員での指導を拡充し、学校推薦型選抜・総合型選抜出願生徒のサポートを行う。	○友子会は、2学年は6月から、1学年は12月から開始し、KITは、1・2学年とも5月から開始し、適宜集会等を行い意欲を喚起した。12月にはKIT対象の進路講演会、数学・英語の講習を実施した。 ○入試研究会、分析会の案内を周知し、積極的な参加を呼び掛けた。また、新課程入試に向けての情報収集を行った。 ○共通テストで新たに課される「情報Ⅰ」への指導について検討し、方向性を定めた。 ○学校推薦型・総合型選抜では小論文・面接について全職員体制による指導ができた。 ○FS、SSR等の取り組みを基に志望理由書を作成する生徒もおり、探究的な学びがキャリア形成につながっている。	A	・模擬試験を重ねるごとに志望者が減少傾向にあるため、志望者を減らさないような手立てを考えていく必要がある。 ・友子会の講習時間帯について、昼休みの実施とされているが、時間帯や実施方法について検討が必要である。 ・模試成績を活用した面談での効果的な学習方法の提示については、KITや友子会の生徒への限定的な提示となっている。学年生徒全体に対して提示できるような工夫を検討する。 ・学校推薦型・総合型選抜の活用におけるメリットやデメリットについて、担任による個別面談段階での十分な周知、生徒自身の意思確認、学校推薦型・総合型選抜への向き不向きなどを踏まえた適切な指導について共通理解を図っていく。	・グローバルな探究活動や世界に出ていく生徒がいることを踏まえて、海外大学への留学が次の目標になるのではないかな。その道筋は難しいと思うが、奨学金やネットワークなどを活用したり、足がかりになるような仕組みづくりを行ってほしい。 ・情報Ⅰのねらいは探究学習のねらいと同じようなものと考えている。入試に関しても、探究学習が活きるのではないかな。 ・受験の作題についてもコンピュータで予測ができる時代であり、入試は変わっていく。これからは基礎知識だけでなく、どのような課題意識を持って生活しているかや倫理観・教養・表現・専門性が重要になってくる。 ・これからの社会では文理融合がより進展する。この点においてだけでなく、すすんでいる海外の良い考え方は取り入れていくべきである。
5	育5の推学習環境の整備と健康・安全	・検診や健康調査、教育相談を活用した健康安全管理能力の育成 ・教育相談体制及び支援を要する生徒理解に係る組織体制の充実 ・危機管理体制の整備と施設設備の安全点検の推進 ・校舎内外の清掃の徹底と美化活動の推進	・様々な場面を想定した「避難訓練」を効果的に実施し、生徒の防災意識と実践力を高める。 ・学校安全の日を中心に、毎月の安全点検を実施する。 ・配慮を要する生徒の情報を職員間で早期に共有し、チームとして対応に当たる。 ・教育相談、適応支援を推進する。スクールカウンセリング予定表を全校生徒に配付し、保護者への周知を図る。 ・「カウンセリング通信」の配付及び特別支援に係る情報発信を行う。 ・清掃強化週間を年間3回設定し、美化委員会による清掃点検を実施する。	○火災の避難訓練を実施し、スムーズに避難を行うことができた。職員全体の防災意識の向上にも役立った。 ○CO2モニターを活用しながら、行事前や流行初期は特に換気の徹底を図った。 ○長期休業前に受診勧告書を再度配付し、受診を完了させて新年度を迎えるよう生徒を促した。 ○体育祭や合唱コンクール、興譲祭での熱中症・感染症予防の呼びかけをおして、全校生徒へ意識づけができた。 ○特別支援に関する校内研修会を実施した。 ○教室・特別教室のWi-fiの強化により、ICT機器が更に有効活用できるようになった。探究活動の中で一人一台タブレット端末を用いたデータ共有やオンライン会議等も行われるようになった。	A	・ミサイル発射時等、様々な場面を想定した避難方法について検討する。 ・現在実施している健康観察の内容について検討する。 ・熱中症への対応の仕方、協力体制等について再度検討が必要である。 ・「清掃」に対する意識を高める指導が必要である。	・学校の雰囲気は規律正しく優秀で真面目である（標準タイプの優等生が多い）が、多様性がない。とがった生徒を包括できる学校であってほしい。 ・地域への情報共有を重視すべきである。知っていることには応援しやすいうこと。地域社会と学校が相互に発展できるようにしたい。
6	魅力ある開かれた学校	・スクール・ミッション、3つのスクール・ポリシーの周知と共有 ・各種評価および学校評議員会の効果的な実施 ・保護者、地域自治体、地域住民との協働による社会に開かれた教育課程の推進 ・学校により、学校ホームページ、フェイスブック等広報活動の充実 ・説明責任に基づく事務処理	・各種行事をおして、生徒の自己効力の高揚と「興譲の精神」の意識の高揚に努める。 ・生徒の将来への励みとなる講師を選定し、記念講演会の充実を図る。 ・生徒による年2回の授業・学校生活評価、保護者による学校評価、及び教職員による自己評価を実施し、授業や教育活動の改善に取り組む。 ・年2回学校関係者評価委員会を実施し、助言内容を本校教育活動改善へ反映させる。 ・学校ホームページ、フェイスブック、Instagramを活用し、タイムリーな情報発信に努める。	○創立記念式において、本校同窓生による講演会を実施した。日本有数の企業の方からの講演は、生徒にとって大きな刺激となり、見識を深めることにつながった。 ○「興譲館だより」を各学期1回発行し、幅広く生徒の活躍を紹介してきた。 ○保護者向け進路説明会を実施し、情報提供と啓発活動を行うことで連携を図った。 △学校ホームページの更新が遅れ、古い情報が掲載されたままとなっており、早急に改善が必要である。	A	・記念講演会における本校同窓生の人材活用を今後も継続する。 ・「さくら連絡網」を効果的に活用した情報発信を継続する。 ・学校ホームページの更新を適時に行う。 ・教育振興会総会や中学校教員対象学校説明会、米沢興譲館探究フェスティバル等を活用し、次年度も本校の教育活動を広く公開する場面をつくっていく。	
7	推進校務の情報化	・「さくら連絡網」の全生徒・保護者・職員の登録を完了させ、効果的に運用しその活用を図る。 ・校内グループウェアを活用し、施設利用の利便性を高める。 ・一人一台タブレット端末によるCBTの導入に向けた指導体制を整備する。 ・デジタル採点ソフトを導入し、業務の効率化を図る。	○「さくら連絡網」により業務が軽減されている。様々な行事の出欠にも活用されている。保護者への緊急連絡等にも効果的である。 △紙媒体の会議資料が多く、ペーパーレスを踏まえた電子データの活用推進が必要である。 △CBTの導入はごく一部の教科にとどまった。	B	・「さくら連絡網」のさらなる活用法について研究する。 ・校務用タブレット端末を活用した業務改善のあり方を研究する。	・校務情報化と教員の働き方改革について、どう教員の負担軽減をするかがポイントになると考えている。教員が楽しくなければ生徒は楽しくないので、教員のサポート体制を整えながら生徒の学習効率を上げてほしい。	
8	働き方改革の健康経営と教職	・定期健康診断結果を踏まえた健康管理の徹底 ・円滑な業務遂行に向けた教職員間の改善策の共有と実践 ・働き方改革プラン、部活動活動方針を踏まえた業務の改善 ・校内倫理委員会とおしたコンプライアンス遵守と教職員倫理の醸成	・校内倫理委員会を中心として、適時的に綱紀粛正について触れる。 ・管理職から適時的に情報を発信し、意識の高揚を図る。 ・部活動方針に基づき、適正に部活動を実施する。 ・校務分掌の分担化・分散化により、業務の軽減を図る。	△コロナ5類移行に伴い、様々な行事がコロナ前に戻りつつある中、時間外在校等時間が月80時間を超える教員が増加した。 △全ての部で顧問を複数配置しているが、それが時間外在校等時間の減少につながっていない。	B	・働き方改革プラン第Ⅱ期の目標である「半期における時間外在校等時間の平均が80時間を超える教員0人」を達成できるよう、教職員一人ひとりのマネジメント力を高める取組みが必要である。	・より良い相互（生徒と学校）の発展のために、物的要素（トイレ、服装など）については改善できるところはすぐすべきである。創造的要素（こんなこと「も」できるの！という感動）があればなおよい。
自己評価、及び学校関係者評価に基づく改善点や検討事項等、他	1 学力の向上、探究型学習のさらなる推進 ・観点別評価をととした個々の生徒の資質・能力を伸ばす指導と評価の充実 ・「探究科」設置6年の成果と課題の整理 2 令和6年度SSH第IV期中間ヒアリングを見据え、地域との協働・研究成果の普及及びユネスコスクール・キャンディデート事業と国際教育の推進 3 進路指導体制の充実・強化 ・大学入試制度の変更に伴う情報収集と指導体制の構築（大学入学共通テストへの教科「情報」の導入など） 4 校務の情報化の更なる推進 ・校務用タブレット端末を活用した業務改善 ・情報環境の整備と見直し						